

科 目 名

薬剤学実習 Laboratory Work in Biopharmaceutics
--

4年 前期 1単位 必修

瀬尾 量・山崎 啓之
緒方 郁子・石黒 貴子

概要・目標

薬剤師は、処方薬の調剤から患者への投与にいたるまで医薬品の品質を確保し、さらには、医薬品の投与を受けた患者の状態（薬効・副作用）と血中薬物濃度をモニタリングすることで有効かつ安全な薬物治療を支援する必要がある。医薬品の製剤特性や薬物動態特性の理解は、上述の薬剤師による医薬品の有効性、安全性、品質の保証にもはや不可欠となっている。本実習では、まず、他剤配合時の医薬品製剤の安定性について解析する。さらに薬物の吸収、分布、代謝、排泄の各過程を速度論的な手法を用いて解析し、薬物速度論および生体内運命について理解を深める。さらに、これらの理解を、最適な調剤あるいは最適な投与計画の立案という形で臨床応用できる能力を身に付ける。

授業計画

1. 実習解説：実習の概略に関する講義と演習
2. 医薬品製剤の安定性
 - ・他剤配合時の各種医薬品製剤の品質変化
3. 薬物の体内動態の把握
 - ・サルファ剤を動物に投与後の体内動態解析
4. 薬物の投与計画法
 - ・血中薬物濃度の測定と血中薬物濃度を治療域に保つための最適投与法の設計

授業方法

講義、グループ実習、演習、討論を行う。

評価方法

実習試験、レポート、実習態度、出席状況（遅刻、早退を含む）などから総合的に評価する。

教 材

研究室で作成したものを使用する。

関連科目

薬物動態学、薬物投与設計学、実務実習事前学習